

Y05a 小中学校の天文教育の中で宇宙開発を教える機会について

中野 多恵 (九州工業大学 理数教育支援センター)

九州工業大学では、平成 21 年に北九州市立児童文化科学館と共同で宇宙を身近に感じてもらうことを目的に宇宙教育の取り組みを始めました。同年、文部科学省の宇宙利用促進事業に採択され、「大学発小型衛星から紡ぐベンチャーマインド」というテーマで教材開発を行いました。平成 23 年度で事業は終了しましたが、平成 24 年度に「大学発小型衛星から育む未来の宇宙利用者たち」というテーマで同事業に採択されました。事業の一環として、北九州市立児童文化科学館に小中学生を対象とした宇宙クラブを設置し、クラブ員が大学生と一緒に宇宙について学んだり、衛星開発の一部を体験したりする講座を開講しています。今後、より多くの児童・生徒に宇宙開発や宇宙利用を知ってもらうには、学校現場などでの教育が不可欠ではないかと思うようになり、北九州市内の小学校と全国のプラネタリウム施設を対象に天文分野を教える際に、宇宙開発についてまで教えているかを調査をしました。これまでの活動の中で感じた天文教育と宇宙教育の違いや調査結果などを発表します。